



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 65

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

開発中の不動ヶ滝周辺
昭和59(1984)年 豊中町
三豊市指定名勝

弘法大師が7つの宝を埋めたという伝説が伝わる七宝山。その山を流れ落ちる落差約48mの不動ヶ滝は、昭和42(1967)年に豊中町指定名勝となる。昭和57(1982)年から不動ヶ滝周辺の整備がはじまり、昭和63(1988)年4月に不動の滝カントリーパークがオープンした。

※文書館では、まちな風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「これは、ちょうど第1期工事の時の写真ですね。もともとのこの辺り一带は山と畑しかなかったんです。仕事で工事現場に行った帰りに、道路沿いの紅葉の種を持ち帰り、小鉢に植えて増やしていたのを覚えています」と話すのは、旧豊中町役場で働いていた岩田猛さん(74)と田所上泰さん(64)。不動の滝カントリーパークの建設が始まったとき、岩田さんはコミュニティセンター一帯の整備を担当していました。

「この整備は、地域で働いている人や住民の憩いの場づくりの一環として始まったものです。工事中には、大きい石がたくさん埋まっているのが分り、滝の下にある貯水池の擁壁に使うことができたんですよ」と話します。

パットゴルフ場や公園内の整備を担当した田所さんは、
「私が芝生広場を整備した時には、石は全然出ませんでした。だから、庵治石などの手配に苦労しました。」

公園を整備する際に、こだわったのは、景観のコンセプトを「弥生時代」にすることです。実際、ここからは弥生時代の土器の破片が出土していました。公園内にある高床式遊具、それらしいでしょ」と振り返り

ながら、説明してくれました。「そうそう、コミュニティセンターは、結婚式場として利用されていた時代があったんですよ。旧豊中町職員もたくさんの方が式を挙げていました。また、道沿いの桜は、確か中学生が記念植樹をしてくれたものですね」と、当時の思い出話に花が咲きます。

今では桜の名所となった不動の滝カントリーパーク。5月には50匹の鯉のぼりが風になびき、年間を通して、他にも四季折々の景色を眺められます。市民の憩いの場の誕生には、こんな開発秘話があったんですね。



編集 後記

今年のは、あつという間に満開の時期が過ぎましたね。天候に恵まれた土日には、市内各地でお花見をしている人々を見かけました。今回、表紙を撮影した八紘山もちょうど桜のピークを迎えており、絶好のお花見日和でした。着物姿の女性と桜。絵になりましたよ！

さて、新年度の始まりです。広報みとよも新体制でスタートを切りました。新しいメンバーのアイデアを生かしながら、今まで以上に活気ある紙面を作っていきたいと思えます。